ウェーブ

1
2024 JANUARY
Vol.324

ひがしかぐら

http://www.ja-higashikagura.com

令和6年年頭ご挨拶

東神楽農業協同組合
代表理事組合長　岸　本　文　孝

組合員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

令和6年の新春をご家族お揃いでお迎えの事と心からお慶び申し上げます。

さて、令和5年度を振り返りますと、5月にコロナウイルスが2類から5類へと変更になり、3年間停滞していた各種の経済活動がコロナ禍以前に戻りつつある中、農産物全般における作柄状況は、高温による影響等で、苦戦を強いられる場面が多く見受けられました。又、国際情勢の中での円安、ウクライナ紛争等による、肥料、飼料、燃油、資材等の高止まりは依然として続き、加えて、50年間続いた転作、交付金の在り方を初め、様々なしくみが大きく変わりつつある1年でした。

令和6年度の国営緊急農地再編整備事業におきましては、工事が旭東東神楽では7年目、旭東地区（西神楽、東聖高台）では5年目を迎えます。本年は両地区合わせて約112haの工事を行う予定であり、資材費等の高騰で事業は当初の予定より遅れ気味ではありますが、順調に進んでおります。

本年におきましても農産物、肥料、資材等の需給バランス、価格は心配な状況でございますが、可能な限りでの対策を考えて行きたいと思っております。

農業の方向性としては、SDGs（17項目の持続可能な開発目標）を初めとして持続可能な農業を推進する「緑の食料システム戦略」、スマート農業を支える農業DX（デジタルトランスフォーメイション）構想などインターネット、AI（人工知能）、GNSS（人工衛星の利用）等最先端の技術を駆使した農業への変更が進みつつある事は昨年もお話させて頂きましたが、基盤整備事業による、水田の大区画化、それに伴う、農地の流動、集積化、その結果としての世帯交代の促進、それを可能にするスマート農業の推進は昨年以上に進み、より避けては通れぬプロセスになっております。水田活用直接支払い交付金の厳格化、それを補完する畑地化交付金への予算の拡充はすでに決定しておりますが、それを踏まえての地域農業の今後の在り方はまだ不透明でありその方向性を明確に示すのが私の責務であると考えております。

未知の変革期に突入している中、令和6年度も、組合員の皆様、役職員と対話を重ね、行政をはじめ関係機関との連携を強化し任務にあたる所存でございます。本年も農協事業に対しまして、組合員各位のご理解、ご指導、ご厚情をよろしくお願い申し上げ、年頭のご挨拶とさせて頂きます。

謹賀新年

代表理事組合長	岸本　文孝
専務理事	前田　哲也
副組合長理事 総務業務委員長	前田　靖雄
理事 総務業務副委員長	白川　茂美
理事	藤野戸祐介
理事	石川　勝幸
理事	田中　淳一
理事	福山　敦
参事兼務理事	田島　隆主
信用担当理事	金田　尚樹
代表監事	吉原　義順
監事	滝沢　昌孝
常勤監事	菅野　良二

他職員一同

辰

令和6年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会
代表理事会長　樽井　功

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業については、春先は天候に恵まれ地域によって降雹被害や竜巻の被害が見られたものの、概ね、平年並みに推移しておりました。しかしながら夏場は猛暑による記録的な高温多湿の影響を大きく受け、各作物の生育自体は、全般的に平年よりも早く進んできましたが、各作物等の収量および品質の低下が顕著となる残念な年でした。

新型コロナウィルス感染症の位置付けは昨年5月より5類に移行し、コロナ禍以前の日常を取り戻しつつありますが、各農畜産物の消費は依然として低迷しており、さらに、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが、農業経営に与える影響は甚大なものとなっています。

さらにこれらの影響を受け、世界の食料需給事情が一変しました。輸出制限を行い、自国の食料を確保する各国の動きが活発化し、世界的な人口増加による食料不足問題など食料争奪合戦がすでに始まっています。我が国の食料を安定的にどう確保するのか。今こそ大いに食料安全保障の国民的議論が必要となっています。

現在、日本の食料自給率は38％しかありません。

これは、世界の先進国の中で最低の水準であり、6割以上の食べ物を輸入に頼っているのが日本の現状です。

食料安全保障の強化が国家の喫緊の課題であることから、我が国の食料供給基地である北海道農業が果たしてきた役割、そして北海道農業への期待は、今後ますます大きくなるものと考えております。

ＪＡグループ北海道は、日本の食料基地であるという使命感に立ち、食料の安定生産・安定供給と農畜産物の需要拡大を両輪として引き続き取り組むことが重要であり、国民の命の源である食を守り続けるにも、まさに新しい農業を築き、未来の世代へ繋いでいく必要があり、行政や全国連とも連携し、しっかりとその対応を図って参ります。

今年は、第31回ＪＡ北海道大会が開催されます。

また、第30回ＪＡ北海道大会の実践最終年度であり、決議された将来ビジョンである、「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」の成果をしっかりと検証し、次のＪＡ北海道大会に繋げていく必要があります。

このような状況であるからこそ、協同組合運動の原点に立ち返り、相互扶助の精神に基づき互いに協力し、力を合わせこの難局を乗り越えることが重要となります。

消費者の皆様に対しては、今まで以上に農業・食に対する理解を求めるため、ＪＡグループ北海道統一の情報発信のフレーズである「アグリアクション北海道」を浸透させ、より効果的な情報発信を行い、ＪＡグループが提唱する「国消国産」の認知を広めて参りましょう。

結びになりますが、本年は辰年です。辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長し、形がととのう年だといわれています。

この謂われにあやかり、本年が豊穣の年となること、皆様のご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

辰

新年にあたって

上川農業改良普及センター
所長　鈴木康義

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様には、新たな気持ちで輝かしい初春をお迎えのことと存じます。

また、皆様には平素から普及センターの活動全般にわたり深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、融雪期は平年と比べ8日早い3月27日となり、例年にない温暖な春を迎えました。融雪後、耕起作業は平年に比べ2～5日早く始まりましたが、その後の断続的な降雨等により、春耕期の作業は平年並みとなりました。6月初旬に低温の期間がありましたが、その後の天候は順調に推移しました。大きな気象災害は無かったものの、例年にない高温多湿の気象経過であり、特に8月中旬から9月中旬にかけての高温条件から各作物とも、平年どおりの品質・収量を確保することが難しい年となりました。

こうした気象経過から、上川地方における水稲の作柄は、収穫を前に倒伏が多く見られ、懸念された胴割粒等は多くなかったものの、品種によっては白未熟粒が多く、高タンパク化など品質に大きな影響を及ぼしました。各転作作物についても高温の影響や、降雨による収穫期の遅れにより品質・収量の低下を招いています。しかし、園芸作物については、高温による影響は見られたものの、全国的な供給減による価格の上昇で増益となった品目もありました。

このような状況にあって、気象条件や病害虫の発生に対応した、皆様のきめ細やかな栽培管理が凶作を回避する結果に繋がったものと、改めて敬意を表するところでありますが、今後も気候変動による農業生産への影響に対しては警戒と対策を考えなければならない状況にあると思います。

国では令和4年に「みどりの食料システム法」を制定し、農林漁業及び食品産業の持続的な発展、環境への負荷の少ない健全な経済の発展等をめざしています。また、国際情勢の変化から生産資材価格の高騰が農業経営に多大な影響を与えている中、国内では、食品原料価格の値上がりが続き、食料安全保障等、農畜産物の国内生産に対する期待も高まりつつあります。先行きが予想できない状況ではありますが、上川地域農業の優位性や潜在力を最大限に活用することで、この難局を乗り越え、持続可能な生産基盤を確立できるものと考えます。

普及センターも、国内外の情勢を的確に捉え、組合員の皆様及び関係機関の方々と一体となり、共に考え、生産振興と地域振興を支援してまいりますので、皆様の一層のご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして健康で希望に満ちた良き年となり、豊穣の年となりますことを心よりご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

謹賀新年

所長	鈴木康義
次長	松浦準
本所 地域第四係長	星春光
本所 主査（畑作）	吉川文哉
本所 専門普及指導員	太田雅章
本所 普及職員	大原萌未
大雪支所 支所長	福屋秀樹
大雪支所 地域第二係長	大沼千佐子
大雪支所 専門主任	小笠原史子
大雪支所 普及指導員	堀田ひとみ
大雪支所 普及職員	京極竜之助

辰

年頭挨拶

JA東神楽青年部
部長　山田敦士

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、ロシア・ウクライナ紛争の長期化による価格高騰と相次ぐ値上げや増税が日常生活に深刻な影響を与え、記録的な高温による農作物への影響もあり苦しい1年だったと思います。

しかし、約3年続いた新型コロナウイルス感染症については5類へ緩和され中止となっていたイベントや懇親会、旅行なども以前と同じように行えるようになり、青年部においても中止や制限を気にすることなく活動ができコロナ禍からポストコロナへの変化を感じられる1年となりました。

青年部活動を振り返りますと、昨年はスイートコーン事業・小学生田植え稲刈り体験・スポーツ交流会・花まつり出店・道外視察研修といった活動を行いました。

花まつり出店では恒例のスイートコーン販売に加え、新たに米ドン販売も行いました。初めて触る米ドン機械でしたが役員たちで試作をし、当日は部員にも手伝ってもらいとてもいい交流・経験となりました。

約2年計画し続けようやく実現した道外視察研修では、熊本農業研究センターでナスやイチゴなどの施設園芸を見学、JAふくおか八女でリーフレタスの露地栽培について話を聞かせていただき、福岡大同青果では市場の見学をさせていただきました。熊本城や太宰府天満宮などの観光もし、部員間の親交を深められるとても充実した時間となりました。

上川地区JA青年部大会と全道JA青年部大会では、新型コロナウイルスによって中止されていたアームレスリング大会が復活し、たくさんの盟友たちの熱気とパワーでものすごく盛り上がりました。

コロナ禍を脱し以前と変わらない活動ができるようになり嬉しく思うと共に、元気や力をもらえる青年部活動の大切さを再確認できた1年となりました。今後JA東神楽青年部としましてはこれらの活動を継続し、さらに発展できるように部員一丸となって考え、農業と地域を様々な情勢に負けないよう盛り上げていきたいと思っています。

最後に、青年部活動に対する組合員の皆様のご協力とご理解に、この場をお借りし心から感謝申し上げると共に、本年も関係各位に変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

謹賀新年

部長　山田敦士
副部長　久保功大
副部長　蔵田希樹
理事　細川優太
理事　北川智悠
理事　稲葉優人
理事　吉原聖祐
理事　塚田圭哉
理事　小足限也
監事　平田駿

辰

新年を迎えて

JA東神楽女性部
部長　小足隆子

新年あけましておめでとうございます。部員の皆様、そしてご家族の皆様、共に輝かしい年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

皆様の令和5年はどんな年でしたか？「猛暑、酷暑」は最近は毎年言っています。「さつまいもが美味しく出来たね。」とか本州っぽくなっているのが良いのか悪いのか、わからなくなっていますが、身体がきついのは確かです。本当に皆さん、家族と共に乗り切りましょう。

「そんな大きいクーラーボックスどうすんの？」と思わせる、夏の日帰り留萌増毛研修旅行。美味しい海産物のお買い物を満喫し、本当に美しい楽しい1日でした。

バスの運転手さんに「こんなスケジュール見た事がない。」と言われた、帯広1泊スィーツ研修旅行。ビート資料館で砂糖の疑問や疑惑が解決し、オリゴ糖のすごいヤツを見つけたり、有意義な2日間を過ごしました。

どちらの旅行も、ものすごい量の荷物で帰宅しました。でもこれは全て、愛する家族の笑顔の為のもの。荷物が重いなんて感じません。幸せの重量なんです。

今年度のメインのBブロック研修大会IN東神楽。地産地消にこだわり、お弁当をお願いしたシゲバルさんには私達の野菜を提供して作って頂きました。役員で持ち寄った野菜を使用した豚汁。最高に美味しかった。町内の体操の先生とお花屋さんによる研修も大盛況に終わりました。ひと安心です。

この様に、活動が元通りになり、活発になり、皆さんの大きな声や笑い声。本当に嬉しいです。1月にはボーリング大会もあります。たくさんの部員の皆さんの参加をお待ちしています。

最後に皆さんの笑い声を想像し、秋の豊作を祈り、素敵な一年になる事を願い、年頭の挨拶と致します。

謹賀新年

部長　小足隆子
副部長　中川友子
理事　佐野敏子
理事　佐野正枝
理事　中村美企子
理事　後藤良枝
監事　松本美香
監事　久保砂多美

女性部　一泊二日 十勝方面研修旅行

JA 東神楽女性部は１１月２０日から１泊２日で、十勝方面へ研修旅行に行ってきました。

１日目は「明治なるほどファクトリー十勝」へ行きチーズを作る工場を見学しました。製造はほぼ自動化されており従業員は数人しかいなく、とても効率的に一貫性のあるチーズ製造をしていました。見学のあとは数種類のチーズやヨーグルトの試食もあり、味の違いなどを感じることが出来ました。宿泊は幕別温泉に泊まり、夕食時には部員の原田さんが用意してくれた「叩いてかぶってじゃんけんぽん」などのゲームをして、大盛り上がりでした。

２日目は十勝の道の駅めぐりと、ビート資料館へ研修に行き、ビートの歴史や栽培および砂糖製造工程について学んできました。

女性部はお買い物も大好き！ということで、今回も何店ものスィーツ店を巡ったり、ワイン城にワインを買いに行ったり、帯広競馬場で馬券を買ったりしましたが、皆さんの行動力のおかげで、どこでも時間通りにスムーズに巡る事が出来ました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

明治なるほどファクトリー十勝見学

ホテルにてゲームで大盛り上がり

ビート資料館見学

R5 年度　JA 東神楽役員道内研修

令和５年度 11 月 29 日～ 12 月 1 日までの期間、札幌・洞爺湖方面に役員 13 名、職員 2 名の合計 15 名で道内研修を行いました。

29 日には、札幌市にあるミツハシライスの会社訪問を行い、会社の概要・施設内見学等を行い、今年度のお米の情勢などについてお話しをしていただきました。

30 日には、ホクレン本所に訪問し、うるち米を巡る情勢について（令和 4 年度～ 6 年度の実績・推定）の話から始まり、令和 5 年度の作柄状況・市中相場動向・販売状況等について説明をしていただきました。その後、札幌みらい中央青果に訪問し、今年度の野菜の販売状況・次年度の傾向等説明していただきました。近年悩んでいる農家の担い手不足等の観点から省力化に取り組む次年度に向け出荷形態についても意見交換してきました。

他にも日本最先端の球場でもあるエスコンフィールドのツアーはじめ、余市ワイナリーやウポポイなど、道央、後志地方の有名な施設を見学いたしました。

今回は研修を通じて、JA 事業の運営体制をより頑固にするべく、未来に向けた方針を話し合えるいい機会となり有意義な研修となりました。役員一同今回の視察で得た多くの知識をうまく取り入れ JA 東神楽の運営に努めて参ります。

クリーンライス研究会役員視察研修

クリーンライス研究会役員は 11 月 14 日～ 16 日視察研修を行いました。

視察先一つ目は東京都にある株式会社スズノブという米穀店を視察しました。

代表の西島 豊造さんは五つ星マイスターの資格を有していて、お米に関して多岐に渡る知識を持っている方で大変勉強になりました。現在の北海道米の立ち位置や、東京の消費者が求めているお米はどのようなものかをお話し頂きました。

視察先二つ目は千葉県にある株式会社ニチレイフーズ船橋工場を視察しました。

こちらの工場では主に冷凍炒飯や冷凍ピラフを 200 ㌧ / 日を生産しており当 JA のお米も取り扱って頂いております。工場の概要説明・工場見学・意見交換など多岐にわたって貴重な体験をさせていただきました。3 日間を通して、役員相互の懇親を深めると共に、充実した時間を過ごすことが出来て大変有意義な視察研修となりました。

旭川地域青年農業者連絡協議会

旭川地域青年農業者連絡協議会＊（以下「青年協」という）は 11 月 30 日に、旭川市農業センターで「旭川の可能性無限大～若手農業者が考える旭川地域農業の課題と未来への展望～」というテーマを基に今津寛介市長との懇談会を開催し、ＪＡ東神楽青年部から４名が参加しました。

青年協と旭川市が共同となって開催が実現した市長との懇談会は、労働力不足の問題や肥料価格高騰対策について、また地域ブランディングや特産品の創出など、様々の課題を今津市長と直接対話し、将来の農業発展に向けた懇談会となりました。

参加されたＪＡ東神楽青年部の理事でもある稲葉優樹さんは「めったにない機会。これからの旭川市の政策や活動に対して市長に意見を伝えられてよかった。」と話していました。

懇談会の終了間際には、ＣＨＥＦ－１グランプリ 2021 で優勝し、現在旭川食のアンバサダーに就任している下國シェフに４農協のブレンド米と野菜を使ったカレーと一品料理が振舞われ参加者全員で試食してとても充実した懇談会となりました。

＊→旭川地域青年農業者連絡協議会とは、旭川地域の青年農業者が相互交流や農業経営に向けた事業を実施し、経営者としての資質向上を図るため、平成 30 年 3 月に、あさひかわ、たいせつ、東旭川、東神楽の 4J Ａ青年部を会員として設立された会

ＪＡ東神楽 ふれあい年金友の会

創立 30 周年記念式典

11 月 14 日（火）、ＪＡ東神楽ふれあい年金友の会創立 30 周年記念式典並びに祝賀会を森のゆ花神楽にて開催いたしました。

冬の訪れを感じる天気となりましたが、ご来賓８名、会員 71 名にご出席いただき晴れあるこの日を迎えました。

午前 11 時より前野副会長の開会宣言により記念式典が始まり坂田会長が式辞を述べられた後、本会にご尽力いただきました前会長の豊田英昭様に感謝状が贈呈されました。

岸本組合長、鳥毛東神楽副町長、姉崎北海道信連旭川支所長より長い間会が存続している事、会員皆さんが健康で明るい地域づくりと会員相互の親睦を目的とし元気で活動している事にお祝いと激励のお言葉をいただきました。

式典終了後は堀副会長の挨拶の後、西神楽年金友の会副会長　山本哲夫様の乾杯のご発声により祝賀会が始まりました。

仲の良いお仲間同士や久しぶりにお会いした方と会話が弾んだり、今回発刊された記念誌を見て 10 年前を懐かしんだりと会場は大変賑やかに時間が過ぎて行きました。

祝賀会の中で TAKE 7の皆さんがバンド演奏と歌を披露してくださり、最後２曲は会員皆さんで歌っていただくなど大変盛会のうちに、西神楽年金友の会副会長　岩倉教道様の万歳三唱で閉会となりました。

30 周年を迎えられた事は会員の皆様をはじめ、たくさんの方々のご理解・ご協力があったからこそ実現出来たと深く感謝致します。

また、40 周年に向けて会員の皆様とこれからも元気に活動を続けて参ります。

西神楽年金友の会　湯治旅行

西神楽年金友の会では、今年最後となる行事を１７名の会員の皆様にご参加頂き１１月２０日から２泊３日の日程で層雲峡ホテル大雪にて湯治旅行を実施致しました。

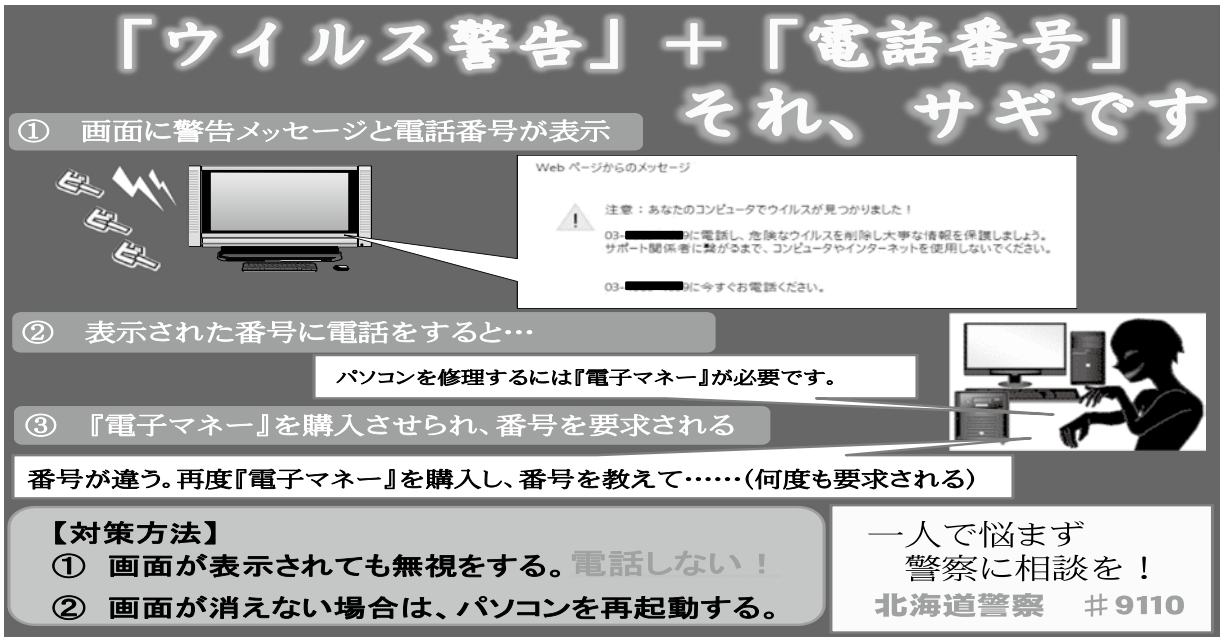
出発当日は１１月後半にもかかわらず、道路には雪もなく快適に層雲峡へと向かいましたが、到着する頃にはうっすら雪景色となり北海道の寒さを実感させられました。そんな寒さだからこそ、温かい温泉で身も心も温まり皆さんの日々の疲れを癒した事だと思います。

初日の夕食はバイキング形式で頂くビュッフェダイニング「ＨＩＮＮＡの森」にて種類豊富な料理に囲まれた中、どれにしようか迷いながらも自分の食べたい料理を楽しみながら選ばれていました。その後は宴会場にて二次会を開催し、久しぶりに会う会員さん同士で話が途絶える事なく楽しまれました。

宿泊中は大広間でカーリンコンや輪投げを部屋対抗戦で行いました。初めてや久しぶりと言う事もあり、最初はコツをつかむ迄難しそうでしたが、次第に慣れて行き良い点数が出ると敵味方関係なく拍手や歓声にて盛り上がりました。

２日目の夜は前田副組合長を招いて宴会を開催し、ビンゴ大会などで楽しい時間を過ごされました。

令和元年度以降４年ぶりの実施となりましたが、今回は２泊３日と過去の湯治よりも１日短い日程の為少し物足りなさはありますが、久しぶりの湯治旅行は参加頂いた皆様のご協力により怪我なく事故なく無事に終える事が出来ました。



JAへ就職希望者100%就職（令和4年度実績）

令和６年度学生２次募集

●募集人員 15 名程度（定員 60 名）●男女共学 ●1カ年、全寮制（個室）●満 24 歳未満（令和5年４月１日現在）
●大学卒及び見込、短大・専門学校卒及び見込、高校卒及び見込
●試験日：令和６年２月３日（土）
●願書受付：令和６年１月９日（火）～１月 24 日（水）消印有効
●学校見学もできます

JAグループ職員養成校

JAカレッジ

お問合せ
資料請求

一般財団法人
北海道農業協同組合学校
〒069-0834 江別市文京台東町 43－1
☎0120－918－417 【JAカレッジ】で検索

「生産者ナンバー入ＦＧ袋の使用前確認について」

生産者ナンバー入ＦＧ袋については、生産物のトレサビリティ確立の為に取り組んでいただいてるところですが、本年９月ピーマンにおいて、ナンバー入ＦＧ袋の誤配送により、ナンバー入ＦＧ袋と中身の生産者が異なる品物が店頭に陳列される事態が発生いたしました。経過については９月にピーマン生産者に対しお知らせしたところですが一部生産者の方に大変ご迷惑おかけしたことを、お詫び申し上げます。

今回の件については、当該生産者の方から発見と連絡をいただいた事により、発見後の回収処理等を行うことができましたが、万が一、異物混入や残留農薬等の問題が併発した場合、追跡が困難になり大きな問題に発展する可能性も否めませんでした。

今後ＪＡでは、納入業者との間での現物確認の強化、製造日報、配送記録の管理徹底を行い、再発防止策を講じ信頼回復に努力して参ります。

以上経緯のご報告とともに、今後も生産物の信頼維持の為にナンバー入ＦＧ袋使用の生産者におかれましては、ご使用前に今一度、生産者番号のご確認について、ご協力をお願い申し上げます。

東神楽農業協同組合
営農販売課

令和5年の畑作（てん菜・馬鈴薯・豆類）を振り返る（真夏日27日連続）

1. 気象状況（1カ月1～6半旬、1半旬5日）

融雪は早く、積雪期間は111日と短かった。4月中下旬の気温・日照時間は少なく、表面水排除のサブソイラ耕等の施工後、畑の乾燥はなかなか進まず耕起・移植作業は平年並みとなった。6月中旬は干ばつ傾向だった。7月は全般的に高温・多照で降水量はきわめて少なかった。8月上旬も記録的に気温が高く、特に最高気温が 30℃以上の真夏日は 7/13～8/8 まで 27 日間続いた。

2. 生育経過と作柄

(1)て ん 菜（ 低 収 ・ 低 糖 度）

生育は平年並みに推移し根部肥大も平年並みに推移した。病害虫の発生は少なかった。7月以降9月上旬までの連続した高温及び昼夜の寒暖差が小さいことによる影響は収量・品質面で現れた。結果的に収量は平年より落ち、糖度も平年より2～3%以上低かったことで糖量が低い結果となった。

(2)馬 鈴 薯（平年並、芋数やや少なく大玉傾向でライマン価低め）

6月中下旬の高温・少雨により塊茎の肥大は7月上旬以降となった。収量は 3.7t/10a と平年並であり、芋数は少なめで大玉傾向だった。品質的には二次生長・空洞果は少ないがライマン価は低めだった。

(3)豆類（二次生長で未熟粒の混入多い）

7月以降の高温の影響は大豆にはあまり見られず平年並みの収量となったが、小豆は7月以降の高温の影響による二次生長が多く見られ青莢が多く葉落ちが悪かった。収穫時の水分が高く、未熟粒の混入が見られ乾燥に平型乾燥機の利用や手より選別等、例年より多くの労力を要する年となった。

令和5年 畑作物出荷実績（概算）（10a 当り）

秋まき小麦	東神楽田・畑	5.1 俵
	西神楽田・畑	6.6 俵
てん菜	移 植 ・ 直 播（糖度）	6.7t（14.9%）
馬鈴薯	粗原反収	3,700kg
大豆		4.1俵
小豆		2.9 俵

3. 栽培上の改善ポイント

(1)て ん 菜**《直播栽培は砕土と施肥位置が重要》**

25～30cm の作土層確保を目指し心土破砕後、プラウで 25cm 程度の深さにかける。パワーハローやロータリー→ブロードキャスター→アッパーロータリー→プランターの順に実施し表面の砕土を向上させる（2cm 以下の土塊90%以上）。

出芽を良好にするため、播種機後部の鎮圧輪を狭幅鎮圧輪（写真）に変更することで中央に凹みを作り風害軽減や保湿力を高める。

直播栽培は濃度障害が出やすいため、種子のまわり3cm以内に施肥しないよう、全量側条施肥にはせず、側条と全層に分散させて濃度障害を防ぐ（右表 直播栽培の施肥例、播種時の側条窒素量 4kg 程度）。

プランター後部の狭幅の鎮圧輪

直播栽培の施肥例

肥料銘柄	施用方法	10a施用量	窒素	リン酸	カリ
シュガーエースS080	全層	120kg	12.0	20.6	12.0
シュガーエースS080	作条	40kg	4.0	7.2	4.0
合計		160kg	16.0	27.8	16.0

(2)馬 鈴 薯**《栽植密度の確保・中耕・培度の方法》**

栽植密度は 70～75 ㎝の畦幅と 30 ㎝の株間の組み合わせで 10aあたり 4,500～4,800 株を確保する。40cm 以上に広くすると大芋が多くなり株当り芋数が少なくなる。

中耕はカルチ・畔間サブソイラにより土壌の膨軟化・通気性向上・地温上昇を図る。培土は着蕾期の6/15までに行い少なくとも芋に 10 ㎝の土が被るようにし、培土の高低差を 25cm 以上確保する。

(3)豆 類（大豆）**《中耕・培土の時期・方法》**

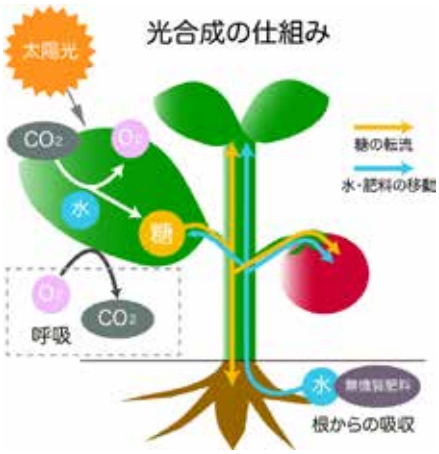
土壌の水分保持力や通気性の改善、排水対策・雑草防除を目的として、播種後 20～30 日頃から根が急速に発達する 7 月中旬頃までの間、中耕・培土は２回程度行う。１回目は播種後約 20～25 日頃に実施、２回目は播種後約 30～35 日頃実施、１回目は第 1 複葉節まで培土し最終培土の高さは 20 ㎝程度にとどめる。また、２回目の培土は適期が遅れると大豆を痛めるので開花始めまでに終える。

定植時における”活着”の重要性!!

今回は、初期生育の確保に向けた「活着」に視点をおき、お伝えします。

活着とは、本圃へ定植された苗が土に根付くことで、新しい環境へ順応して根の生育を維持するため、基本的で当然ですが重要な働きとなります。

特に果菜類では、活着の段階で障害が起きると、その後で対応しても回復することは難しく、活着の「良否」が生育を左右するポイントになります。



■根に必要なエネルギー

植物の成長に欠かせないものは「光合成」です。通常、根はエネルギー源を地上部が行う光合成に頼っています。よって、植物に適した環境（日照・温度・水・土・肥料など）を整えることで、光合成が安定的に行われ、根の伸長や活着の促進につながります。

■活着不良の要因と対策

活着不良を起こすと作物全体の成長が停滞するなどの障害が発生します。不良の原因は、さまざまな条件で起きますが、一般には以下の条件が原因と考えられます。

・地温が低い

気温・地温ともに大切な要素ですが、活着段階においては、「地温」が重要です。マルチを被覆することで早めに地温を上げ、蒸発による乾燥を防ぎ温度を保つ状態にします。また、土壌の含水率が低いと保温機能も低下するため、「保水」にも留意する必要があります。

・日照不足

光合成活動が低下し、葉の伸長やクロロフィル（葉緑素）の形成が抑制されます。そして、エネルギー源のない根は伸長しにくくなります。さらに、光が土壌に届かず、地温が上がりにくい悪影響も引き起こします。その後に備え、いかに早く草勢を回復させる管理が求められます。

・土壌の過湿

根腐れを起こす原因の多くは、排水性の悪さが起因しています。排水不良地では、明渠の設置、心土破砕、高畦栽培などの対策を行い、根域の確保と透排水性の改善を図ります。

・灌水不足

作物の特性や土壌の特徴にもよりますが、一般に活着を促すためには「株元」を中心に灌水が必要になります。活着後は灌水を控え、根の伸長を図ります。

・定植のタイミング

苗のサイズや本葉の枚数などで判断をします。適期を逃すと、老化苗となり根の活着が悪くなります。適切な苗の大きさや本葉の枚数は、品目や品種によって異なります。

自動音声ガイダンスの詐欺電話！！！！

ＮＴＴファイナンスです。
未納料金があります。
詳細は、１を押してください。

押してしまうと、職員をかたる者に繋がって支払いを求められ、電子マネーや現金をだまし取られてしまいます！

ＮＴＴファイナンスでは、自動音声ガイダンスで、契約状況に関する事項や、回線の利用停止を通知することは行っていません！

北海道警察

お問い合わせは 農機自動車課 ☎83－3810

つくる人を幸せに、食べる人を笑顔に
ホクレン

令和５年１２月～令和６年１月

年末年始の業務について

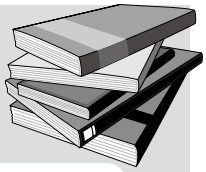
区　分		業　務　納	業務初め及び営業日
本店 西神楽営農センター 一般業務		１２月２９日（金） まで平常業務	１月９日（火）午後４時まで １月１０日（水）より平常業務
金融共済業務	本　店 西神楽支店 旭川支店	窓　口 １２月２９日（金）まで 平常業務	窓　口 １月４日（木）より 平常業務
		ＡＴＭ～１２月３０日（土） 午後２時まで	ＡＴＭ １月４日（木）より平常業務
給油所業務	本部給油所 西神楽給油所	１２月３１日（日） 午前８時から午後６時まで	１月１日（月）～３日（水） 午前８時から午後６時まで
			１月４日（木）より通常業務 午前７時から午後７時３０分まで
	灯油配送業務	１２月３０日（土）まで	１月４日（水）より平常業務

今月の配本図書

JA 東神楽農業文庫

※東神楽町図書館でご利用いただけます

図書に関するお問い合わせは
農業振興課TEL 83-2243



まんがでわかる 賀川豊彦と考えるボランティア

関東大震災 100 年事業 賀川豊彦とボランティア実行委員会 (編集), 富士山 みえる (その他)

今から 100 年前に起きた関東大震災。当時、被害が深刻だった東京・本所地域に拠点を構えて、被災地の救援を指導した賀川豊彦。「ボランチャー」という言葉を使い、若者たちに復興支援を呼びかけ、現在につながるような被災地支援のあり方を模索した賀川豊彦は、「ボランティアの父」でもあります。関東大震災のときの、賀川の支援活動の先駆性や、現在まで続く賀川の影響やその価値を、まんがで紹介します。

榎本美沙の発酵つくりおき（少量だから気軽に続けられる）

榎本 美沙 (著)

発酵食品を使って、健康で、簡単なつくりおき！　「今日は冷蔵庫に美味しい〝あれ、がある…！」
みそ、塩麹、甘酒、ヨーグルト……発酵食品をたっぷり使ったつくりおき 72 品
「つくりおき」って便利だけれど、たくさん作ってしまうと、「食べなきゃ…」とプレッシャーを感じてしまうもの。だから、榎本美沙さんの「つくりおき」は夕飯のついでに、ちょっとだけ作ります。「つくりおき」がある安心と、十分食べきれるという安心が、心の余裕につながります。そして、榎本美沙さんの「つくりおき」に欠かせないのが「発酵食品」です。みそや塩麹、甘酒、ヨーグルト、黒酢などの発酵食品を使うことで、味に奥行きがでて、冷めてもおいしいおかずができるのです。なにより、発酵食品を使った肉や魚は、２～３日置いても柔らかいまま。シンプルな素材で、心も体も軽やかに、野菜もたっぷり食べられるレシピが満載です。榎本先生の発酵暮らしにまつわるコラムも収録。

ふんわりとろける米粉のシフォン

中山真由美 (著)

食感を追求した優しい味わいの極上シフォン
ロングセラー『決定版 ふわふわ、しっとり、とろけるシフォン』の著者待望の米粉シフォンレシピ集。
バニラやコーヒーなどシンプルなものから、ドライフルーツやナッツを加えたもの、2 つの生地を使って作るマーブル柄など、バラエティ豊かな 29 レシピ。
飲み物がいらないほどなめらかな食感に、米粉ならではのもちもち感が加わった、極上のシフォンをお楽しみください。

営農懇談会の開催予定 R6

令和6年1月	時間	会場	地区
22日（月）	9:30～12:00	ふれあい交流館	東聖1・4・5・6区 ひじり野全区・旭神町
	13:30～16:00	聖台公民館	東聖7・8・9・10区 中央12・13区
23日（火）	9:30～12:00	農協本店	東神楽中央全区 市街地
	13:30～16:00	忠栄公民館	忠栄全区
24日（水）	9:30～12:00	稲荷公民館	稲荷全区
	13:30～16:00	八千代公民館 （もりみどり）	八千代全区
25日（木）	9:30～12:00	瑞穂会館	西神楽全区
	13:30～16:00	西神楽支店	西神楽中央全区 新開・地区外
26日（金）	9:30～12:00	聖和会館	聖和全区
	13:30～16:00	千代ヶ岡会館	千代ヶ岡全区・就実
27日（土）	9:30～12:00	志比内公民館 （さくらプラザ）	志比内全区
	13:30～16:00	農協本店	JA青年部・JA女性部

JA共済　JAの自動車共済 フリーダイヤル安心サービスのご案内

ご契約の自動車が事故や故障に見舞われたときは

ご契約のJA（業務時間内）もしくは

フリーダイヤル安心サービス

（ 24時間 365日対応）

事故等の場合には
ＪＡ共済事故受付センター
0120-258-931（ジコはクミアイ）

レッカー移動や故障時の応急対応が必要な場合には
ＪＡ共済サポートセンター
0120-063-931（レッカーロードサービスはクミアイ）

フリーダイヤル　携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

電話料金は無料です。 公衆電話につきましては、電話をおかけになる時の10円は必要ですが、かけ終わると戻ります。

安心の5つのサービス

●レッカーサービス　●ロードサービス　●夜間休日現場急行サービス
●夜間休日初期対応サービス　●休日契約者面談サービス

24時間・365日、事故受付とアドバイス、各種サービスが受けられます。

令和6年 道内市場休開市日程表

■印の日は休市です　◯印の日は臨時開市です

1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

1日～4日　正月休　5日　初セリ
8日　成人の日　17、24、31日　臨時休市

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

11日　建国記念日　12日　振替休日
23日　天皇誕生日　7、28日　臨時休市

詳しくは東神楽地区 営農販売課 ☎83−2241・西神楽地区 営農センター ☎75−4215 までお問い合わせ下さい。

今月のスナップ

JA上川地区女性協議会創立70周年記念式典　集合写真

農協法制定記念日式典

編集後記

新年あけましておめでとうございます!今年もよろしくお願いいたします。今年の干支は「辰」年ということで、十二支の中で唯一空想上の生き物で、権力や隆盛の象徴であることから、出世や権力に大きく関わる年といわれています。西田は今年で3年目の職員ですので、出世や権力は与えられるものではありませんが、少しでも皆様に貢献し、早く出世できるように、今年の初めは、高めのゴマすり器を購入し(冗談)元を担ぎたいと思います。(西)

今月の表紙

今月は東神楽地区　中央10区

㈱ 吉原農場の皆さん

ご協力いただきました！ありがとうございました！

JA ひがしかぐら ウェーブ

Vol.324　令和6年1月号

東神楽農業協同組合　☎TEL 0166-83-2321
〒071-1512　北海道上川郡東神楽町北1条東1丁目2番1号